

2020年3月期第1四半期決算電話会議 主なQ&A

Q 新幹線運輸収入の実績は。

A 新幹線の運輸収入については、対前年+53億円の増の1,150億円。GW10連休の運輸収入が想定を上回ったことが主因。内訳は、山陽新幹線が対前年+49億円の増の1,046億円で、基礎トレンドが対前年100.6%で+5億円の増、特殊要因が+43億円の増。北陸新幹線が対前年+4億円の増の103億円で、基礎トレンドが対前年99.5%で▲0億円の減、特殊要因が+4億円の増。

Q インバウンドについて足元で状況の変化は。

A インバウンドについて、関空からの入国者数の推移を見ても、足元で大きな変化は感じていない。インバウンドは増収の重要な柱であり、引き続き動向を注視したい。

Q 第1四半期の修繕費の実績をどう評価しているか。通期の見通しは。

A 修繕費については対前年▲4億円の減。これは工事の竣工タイミングの差によるものであり、修繕工事は計画通り進捗している。通期については、対前年+64億円の増の1,705億円の計画。19.3期の豪雨災害に伴って実施した工程調整の反動が見込まれる第2四半期以降、対前年で大きく増加する見込み。

Q グループ会社の新規連結の概要は。また、今期の収益、利益に与えるインパクトについてはどう見込んでいるか。

A 第1四半期より株式会社奈良ホテルと株式会社てつでんを新規に連結子会社とした。奈良ホテルは歴史的文化的価値の高いブランドホテルとして、てつでんは運行管理システム等の内製化に資する戦略子会社として、いずれも重要性が高まったため新規連結を実施した。2社の新規連結による通期での連結決算への影響額は、営業収益+36億円の増、営業利益▲2億円の減。

以上